九条の樹

120 号
2026年11月発行

発行：東久留米「九条の会」　連絡先：℡ 090-6021-3686（鈴木）
http://higashikurume-9.net/　メール：higashikurume9j@gmail.com

東久留米「九条の会」21周年のつどい

憲法9条をひろげて戦争をなくそう

小沢隆一さん講演会に110名参加



小沢隆一さん

東久留米「九条の会」21周年のつどいが、10月18日に成美教育文化会館で開催されました。

最初に会の事務局から、この間の経過報告と訴えがありました。

この会は2005年に、児童文学者の古田足日さん、絵本作家の田畑精一さんらが呼びかけて誕生しました。そして、東久留米の各地域や、職域に九条の会ができ、学習会や映画会や催し物などがひらかれて、活発に活動を始めました。それから21年が経ち、中心になっていた方達が高齢になって元気がなくなるなどしてきましたが、今でも9条の碑見学ツアーや学習会など続けている会もあります。

この間、憲法に対して変えようとするものすごい攻撃が行われてきました。しかし、国会の中でもいまだに憲法改定案がつくられていません。踏ん張ってこられたのは、九条の会が全国に何千とつくられ、戦争反対や九条を守ろうと、全国の人たちが頑張ってきたこと。そして今後若い人たちにこの思いを繋げていくこと、また地域で活動を再開していくことが大切と訴えました。

続いて東京慈恵医科大学名誉教授、九条の会事務局員の小沢隆一さんは、「日本国憲法は80歳、人間なら『3世代』『温故知』」を噛みしめるときです」と講演が始まりました。

「憲法を無視する、学ばない、学問を大事にしない政権と政治に負けるわけにはいかない。2026年総選挙結果に衝撃を受けて国会、官邸前に続々と集う若い人たちと、学びと運動の「楽しさ」を共有して、憲法100年を憲法九条のもとで迎えよう。いまはまず、九条改悪反対新署名を広めて多く集め、主権者の意思を示そう」と呼びかけました。

講演内容につきましては、2、3面をご覧ください。

最後に「東久留米に9条の碑をつくる会」から、建設の場所の提供、建設の資金（カンパ）、建設に向けて会の活動へのご参加、ご協力のお願いがありました。

21周年のつどいに感想が多数寄せられています（4面）

憲法9条をひろげて戦争をなくそう

小沢隆一さん講演



10月18日、東久留米「九条の会」21周年のつどいでの小沢隆一さん（慈恵医大名誉教授、憲法学）の講演要旨です。

朝早くからお越しいただきありがとうございます。日曜日の朝ミサをやるようです（笑）。こちらは21周年だそうですが、「九条の会」そのものも2004年にできまして、当時私は静岡大学におりまして2006年に東京の慈恵医大に来ました。九条の会事務局の人から、東京に出てきたのだから、いっしょにやってくれと言われて、渡辺治さんらといっしょにやることになりました。

静岡にいたときも九条の会を作って、澤地久枝さんを招いて講演会を開き、会場に入りきれない人が集まりました。当時どこでも盛り上がっていました。その時どういう状況だったかというと、2003年にイラク戦争が起こり自衛隊が海外に出て行ったわけです。専守防衛の自衛隊がイラクまで出て行ってしまう、大変なことだ、ということで大江健三郎さん、加藤周一さんらがよびかけて九条の会ができ、全国に7500の九条の会ができたわけです。

それから22年たって、当時45歳だった私が定年して名誉教授ですからずいぶん時間がたったわけです。それでもこうやってちゃんと運動を続けていることが大事なことだと思います。

日本国憲法は今年の11月3日で満80歳を迎えます。ほぼ3世代です。おじいちゃん、おばあちゃんと子ども、その孫の世代と話をするとき温故知新ということが大事だと思います。若い人に歴史を語ること、と同時に年長の人にもあったことを改めて知ることが大切ではないか。忘れているんですね。憲法が生まれたころ生まれた人だって、みんな知ってるわけではない。関心がなければ知らないし、憲法も九条だけでなく、人権やその他範囲が広い。いつも憲法を考えているのは憲法学者ぐらいでしょう。憲法ができたことや歩みを知ることが大事だと思います。

残念なことに、そういうことをする気のない人が首相になっている。彼女は当選してすぐの若いころ「私は戦後生まれなので戦争のことは分かりません」と言ったんですね。そういう人が首相で九条を変えようとしています。

憲法九条はなぜできたか

憲法は建物の基本設計、構造のようなものです。国の形、基本設計ですが、九条は建物を建てているときから傾けられてきたものなのです。その本来の姿は国連憲章と一緒のものです。国連憲章は日本が降伏する前にできています。45年6月です。国連憲章では「われら一生のうち二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救うため」と言っています。一つの世代が二つの世界大戦をやってしまった。こんな大きな戦争をやめるための仕組みを作るということで国連ができました。

戦争をやめるためにどうするか。まずは侵略をやめる、国際紛争は話し合いで解決する、戦争を紛争解決の手段にしない、ということを決めたのですが、ルール違反が出たときどうするか、その時にほかの国全部でやめさせよう、ということになりました。

その後アメリカやロシアなど常任理事国が、戦争をはじめて、拒否権を使うなどうまくいっていないのですが、当時はそうい

うことで戦争をやめよう、ということでまとまっていました。

国連がそういう形でまとまり、そのあとの日本国憲法は、その仕組みのもとでは日本は軍隊を持たなくていい、侵略されたら国連が守ってくれる、わざわざ自分が軍隊を持つ必要はないとなったわけです。憲法九条ができたもう一つの理由は、日本がかつてアジア各国に侵略を繰り返した、そういう国に軍隊を持たせない方がいい、そういう連合国の思惑もあったのです。

九条と米軍、自衛隊

そういうことで日本に憲法九条ができました。できたときには軍隊がないということでスタートしました。しかし残念なことに今の日本には「日本を守るぞ」という建前で米軍がいたり自衛隊もあります。

さて、変わったのは朝鮮戦争がきっかけです。北朝鮮が南部に攻めてきて、次に対馬、博多に来るとか、まことしやかに言われて国民が浮足立ってしまったのです。朝鮮戦争は北朝鮮とソ連、中国が連携して南部に攻めたのがはじまりでした。アメリカは日本を足場に国連軍として戦ったわけですが、その後も日本に軍を置き続けたいと、日米安保を結んだわけです。日米安保は日本を守るためではなくて主目的はアメリカの政策です。ですから米軍駐留は朝鮮戦争がきっかけです。

そのあとアメリカから自助努力を求められて自衛隊ができました。

50年代から自民党は、自主憲法制定だと九条改憲を打ち出しましたが、国民の中ではビキニ被ばくや平和を守れという運動や女性たちの母親運動、労働運動なども盛り上がっていきました。そういうなかで60年安保を迎えます。日米の軍事協力を強化するものでした。デモ隊が国会を何重にも包囲する状況を作りましたが、強行採決されました。それでも岸首相がねらった憲法九条を変えることはできませんでした。その結果日米安保は変なものになりました。普通軍事同盟はどちらかが攻められたらお互いに守りますよというものです。NATOも米韓同盟もそういう仕組みですが、日米安保だけは日本はアメリカが攻撃されても出動しない、在日米軍が攻撃された時だけです。これは九条があるからなんです。自衛隊は憲法九条のもとでは専守防衛なのです。アメリカといっしょに集団的自衛権を行使するものではない、と政府が説明していました。

ところが日米政府はずるくて、そういう条約を作っておきながら裏で少しずつ徐々に軍事同盟の実質を作ろうとしてきました。核密約とかPKOとか、海外に出て行ってアメリカの後方支援とか、武力の行使ではなく武器の使用だとか言って、ずるい理屈で少しずつ九条の縛りを壊していこうとしました。それでも九条を根拠にして国民から批判が続いています。

自衛隊が正式な軍隊でないために多くの問題があります。私はこの夏、北海道の矢臼別というところに行きました。自衛隊の演習場があるのですが、その隣に農業をしている人がいます。自衛隊が正式な軍隊になったら土地を「売ってくれ」、売らなければ強制収容をかけて土地を取るだろうと思います。戦前は実は軍隊のための土地収用が認められていました。戦後は九条ができたため軍事目的の土地収用は出来ません、という仕組みになっています。矢臼別の農家はここで馬を育て続けると言って屋根に「自衛隊は憲法違反」と書いてがんばっています。

つづく（文責事務局）



東久留米「九条の会」21周年のつどい

小沢隆一さん講演の（感想）

○改めて日本国憲法を学ぶことができ、確信になりました。又、国連の性格を知ることができました。

○私は「犠牲をともなわない平和」の考えから、日本が非武装中立国になることを決め、世界に発信すべきだと考えます。現政治政党は、なぜそれを実現しようとしないのでしょうか？「戦争はイヤだ」というのであれば、非武装中立国なることしかありません。そうすると、世界各国も動くでしょう。

○米軍が沖縄に駐留し続けているのは、日本を守るためではなく、やはり朝鮮戦争に勝つための拠点だったのですね。この日本を踏み台にしてと、もくろんでいることをやめさせるためには、「安保条約」「軍事同盟」の体制を考えていく運動が大事だと思いました。

○学術会議の問題で決して政府の思い通りにならないでしっかり歩んでいる状態に安心しました。

○与党が衆院で圧倒的多数の議席をもち、野党の一部にも憲法改悪推進勢力があるにもかかわらず、憲法改悪にむけた動きが進んでいないようにみえる。その動向について聞きたかった。

○日本の近代史を学ぶと共に、憲法について学び、語り、広げていくことが大事だと思います。

○九条は私たちの宝です。学生時代に受けた憲法の学習は不変でしたが。これからも大切にしていきます。平和な日本と諸外国の平和を求めて行動していきたいと思う。

○九条は無力だという雰囲気が強まる中、九条の力があってこその事例をたくさん教えていただき、元気が出ました。憲法関係、歴史関係の学者先生のお話をきくと、学者としての良心を感じます。御用学者もいないわけではありませんが、学術会議に参加の先生方にも頑張ってほしいと思いました。

（同じような内容はまとめました。）

つくろう みんなで 東久留米に 9条の碑を

富士見通り診療所に展示中

「東久留米に9条の碑をつくる会」は、憲法第九条の条文のパネルやポスター、全国各地の九条の碑の写真や条文の入った栞（しおり）などを展示中です、ぜひご覧ください。早期に実現できるよう、皆様のご協力をお願いします。ご連絡は左記まで。





連絡先：電話・090-6021-3686（鈴木）
メール・higashikurume9hi@gmail.com

《平和を考える本》

『女たちよ、大志を抱け
―戦時下、外地で就職する』
（飯田未希・著　中央公論新社）



（2250円＋税）

第二次世界大戦前から戦中にかけて、タイピストや電話交換手などの職を求めて中国大陸や南方へ単身渡った女性たちが少なからずいた。

当時の日本は、「お国のため」というスローガンのもとに、女性は家を守るべきという規範を押し付ける社会だったが、渡ってみれば外地もまた、男尊女卑や仕事内容への無理解など、厳しい世界であった。

そんな現実の中で、彼女たちはどう生きたか。

専門性を身に付けた中流階級の女性が働くために海を渡った実態を、ジェンダー史の研究者である著者が膨大な証言・資料を基に解明した。

（高田桂子）